

(第21号) ***日本十進分類法 (NDC=Nippon Decimal Classification) ***

日本十進分類法は、日本でもっとも一般的に使用されている標準の分類法です。1927年、標準分類法の制定を掲げた青年図書館員連盟の会員である森清が試案を発表、2年後に公刊しました。デューイの十進記号法を基に、知識の全体を9区分し、どの区分にも属さないものおよび全ての区分をも含むものを総記(0)として計10の主題(類)に分けられています。以下、同様に各主題の10区分を繰り返して展開して行きます。このような構成から、分類表のつくりが簡明であり、分類記号の桁数により体系の系列概念の順位が明らかにされ、理解しやすくなっています。逆に、全ての主題を9以下に区分することにより不合理性が生じるという欠点もあります。

体系の1例として「カーリング」を主題とする図書の分類を見てみると、綱目から細目へ順を追って以下ようになります。

700 (芸術) > 780 (スポーツ・体育) > 784 (冬季競技) > 784.9 (カーリング)
スポーツに関する資料をよく使う人なら、780を覚えておけば、求める資料が探しやすくなるということです。

現在、本館の医学以外の図書と分館の図書について、NDCを使用しています。分類本表の他に、件名から検索できる「相関索引」もありますので、興味のある方は、カウンターでお気軽にお問合せください。

図書館トリビア

日本の図書館の最高峰である国立国会図書館では、NDCを採用していません。国会に属する図書館という性質上、社会科学部門を重視した国立国会図書館分類表(NDLC=National Diet Library Classification)を独自に構成、使用しています。ただし、書誌データには、分類記号としてNDCも付与されています。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。